

# 学校紹介

School

## 『地域を愛し 地域に愛される 学校づくり』を目指して

佐賀県立有田工業高等学校 主幹教諭 副島 弥重一

### 1. 学校の沿革

本校は、明治14年有田の地場産業である窯業の技術者養成機関として設立された「勉脩学舎」をその前身としており、創立124年の歴史を有する全日制と定時制の併設校である。校訓は、『勉脩。「愛し」「創り」「光れ」を礎とし、自立した人間の育成を掲げている。「愛し」「創り」「光れ」に込められたそれぞれの思いは、「愛し」：自分を大切に、他人を思いやること、「創り」：新しいことに積極的に挑戦していくこと、「光れ」：一人ひとりが社会に貢献できる人間になることである。

有田の伝統風土を守る人材とともに、日進月歩の科学技術にも即応できる有能な技術者17,758名を全国に輩出している。

現在、セラミック科、デザイン科、電気科、機械科の4つの学科があり、次のようなスクール・ミッションに取り組んでいる。

#### 【全日制】

○有田が持つ様々な地域資源を活用し、ものづくりを通して生涯学び続け、新しい価値を生み出す技術者を育成する。

○国内初の陶器工芸学校の伝統を継承するセラミック科、デザイン科の魅力を磨き上げるとともに、広く県内外に発信して生徒を募集し、学校及び地域の更なる活性化を目指す。

#### 【定時制】

○国内初の陶器工芸学校の伝統を継承するセラミック科、デザイン科を持つ西部地区の定時制高校として、ものづくりを通して生涯学び続け、挑戦し続ける生徒を育成する。

これらのスクール・ミッションのもと、卒業

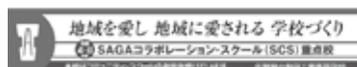
までに育成を目指す資質・能力に関する方針であるグラデュエーション・ポリシーを次のように掲げている。

- ①ものづくりを通して、生涯学び続ける技術者となる生徒
- ②自己や他者、地域を愛し、地域から愛される生徒
- ③積極的に挑戦し、新しい価値やものをつくり出す生徒
- ④個々の個性を光らせ、地域や社会に光を灯す生徒

また、このような資質を有する生徒を育むための教育課程編成及び実施に関する方針であるカリキュラム・ポリシーを、学校全体として次のように掲げている。

- ①ものづくりの技術者として必要な、基礎学力と専門的な知識・技能を習得できる授業を行う。
- ②学校行事・ホームルーム活動や部活動、地域との連携などによる協働活動を通して、社会人としての基本的な姿勢や思いやりの心、自律心を伸ばす。
- ③生徒会活動や資格取得・コンテスト参加について、生徒の主体的、自発的な取組となるようにサポートを積極的に行う。
- ④生徒それぞれが個性や長所を把握できる取組や、3年間を見通したキャリア教育により生徒の進路意識を育み進路実現につなげる。

なお、これに加え4つの科ごとにカリキュラム・ポリシーも掲げており、それぞれの科で特色ある教育課程の編成及び実施を行っている。





係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現する。

⑤学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながる。

#### (4) 学校運営協議会の役割

##### ①学校運営の基本方針の承認

学校長は学校運営の基本方針を説明し、これに対して協議会は承認を行う。

##### ②学校運営・教育活動について意見

学校長は学校運営・教育活動について説明し、協議会はこれに対しての意見を行う。また、協議会は学校運営に関して県教育委員会に意見を述べることもできる。

##### ③教職員の任用について意見

協議会は、一定の制限のもと学校の運営の実現に関する事項について、佐賀県教育委員会に対して教職員の配置に関して意見を述べる事ができる。

#### (5) 本校での取組状況

本校では前述のとおり、学校魅力強化委員会設置要綱に基づく学校魅力強化委員会を設置し、学校の魅力化を研究し実践している。学校の魅力化を図るため、学校魅力化アドバイザーにより事業の伴走支援を受け、PDCAサイクルの構築を図っている。また、学校魅力化コーディネーターの配置により、唯一無二の誇り高い学校として県立学校の魅力の向上、地域と協働した実践的教育の確立に向け取り組んでいる。さらには、セラミック科とデザイン科については、「地域みらい留学」の制度を取り入れ、県内外からの志願者を増加させ、地域社会に貢献できる有益な人材の輩出を目指している。なお、この事業における本校の特徴として、以下のようなことが挙げられる。

- ・全国的にも珍しい特徴的な学科が存在する。
- ・地域との連携活動がこの事業開始前からすでに多く存在している。
- ・学校運営協議会の委員に地域の方が多く、地

域の意見を反映させやすい。

・「地域みらい留学」により全国募集を導入して3年目の現在、この制度を利用して、令和4年度に1名（現3年生）、令和5年度に6名（現2年生）、令和6年度に3名（現1年生）の入学者が在籍しており、学校の活性化につながっている。

## 4. 地域との連携事業

本校の地域連携の取組状況については、地元の商工会議所や観光協会など様々な団体と連携し、多くの地域連携活動を行っている。また、各学科ともに外部からの講師派遣事業などを利用しての授業を実施するなど、生徒の能力向上につなげることができている。さまざまな地域の団体等からの依頼が多く入る学科もあり、生徒及び職員のマンパワー不足もみられる。今後の目標として、これまでの連携活動について教育的効果を意識しながら整理し、より密に連携を行うとともに、地域貢献が難しい学科については、貢献できる内容を検討することとしている。なお、この地域連携の取組の成果指標として、年2回実施する学校魅力化評価システムアンケートにおいて、「自分の学校を中学生に勧めることができると考えている」という項目で肯定的に答えた割合を生徒85%、教職員90%を成果目標としている。各学科の地域連携の取組は、以下のとおりである。

各学科の地域連携の取組

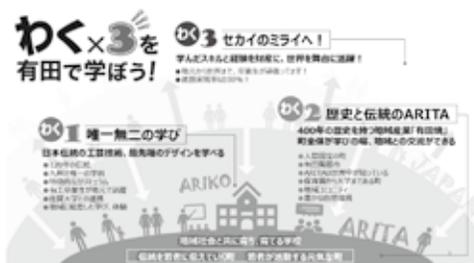
時期	行事	分類
5月	ものづくり道場	電
5月	ものスゴフェスタ参加	セデ
6月	ガス溶接技能講習	機
6月	工場見学	セ電機
6月	陶芸交流授業（町内小学校）	セ
7月	外部講師による授業	デ
7月	セラミック科展（佐賀市）	セ
7月	伝統的工芸品教育事業（1年生）	セ
8月	セラミック科展（福岡市）	セ
8月	ウインドウディスプレイ甲子園参加	デ
8月	インターンシップ	セデ電機
9月	地域の方による就職面接指導	セデ電機
9月	伝統的工芸品教育事業（2年生）	セ
9月	高校生クリエイター新聞広告作成開始	デ
9月	デザイン科展（佐世保市）	デ

10月	工場見学	セ電機
10月	陶芸交流授業（町内中学校）	セ
11月	外部講師による授業	機
11月	内山百貨店への出展	セデ電機
11月	うれしの特別支援学校との交流授業	セ
12月	スクールチャレンジ交流館への出展（伊万里）	セデ電機
12月	工場見学	セデ
1月	卒業制作展	セデ電機
3月	地域学習の日	セデ電機
3月	外部講師	電
3月	県内企業紹介会	セデ電機
通年	課題研究による地域との連携	デ
通年	課題研究による地域への貢献	機

セ：セラミック科，デ：デザイン科，電：電気科，機：機械科

## 5. 地域みらい留学による全国募集

本校では、特色のあるセラミック科及びデザイン科の2学科で全国募集を行っている。全国募集のキャッチフレーズは、「わく×3を有田で学ぼう」。全国から意欲のある生徒を募集することで、学校の活性化を図り、有為な人材の育成を行うとともに、地域の活性化も図ることを目的としている。



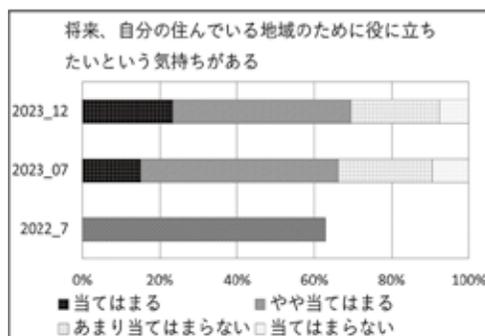
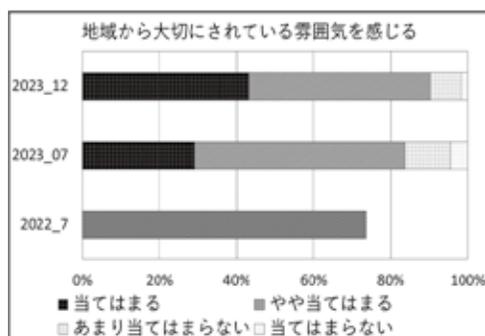
この事業は、佐賀県教育委員会が一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームと参画契約している地域みらい留学事業である。この事業内容は、合同進学説明会（年1回）への出展、地域みらい留学を希望する中学生やその保護者向けのオンライン説明会（全9回）、オープンスクール（2回）等である。オンライン説明会には、現役の地域みらい留学生も出演し、参加者への質問に答えている。

この地域みらい留学による全国募集に関して、令和3年に地元の有田町と佐賀県教育委員会と学校の三者で連携協力協定を締結している。県教委は、連携会議を開催し事業の問題点の把握と解決策も見出すなど全体調整を図る役

割を担っている。有田町は下宿先の開拓などの生活環境の充実を図り、地域みらい留学生に対し1か月3万円の生活支援金を給付し、その生活支援金に合わせた下宿先の提供や飲食店での高校生応援メニューの提供などを行っている。地域みらい留学生の住まいは、地域の一般アパートや下宿に加え、新たに昨年度、県、町、地域が協働して整備したシェアハウスが完成した。また、県教委によりハウスマスター制度を導入し、地域みらい留学生の生活の見守り・サポートを行い、親元を離れ一人暮らしをする生徒の保護者も安心できるようなシステムが構築されている。

## 6. PDCA サイクルによる事業実践

年間2回の学校魅力化評価システムによるアンケートを実施し、PDCA サイクルにて事業の改善・修正を行っている。アンケート結果の一部は以下のとおりである。



今後も、「地域を愛し地域に愛される学校づくり」を通して、「有田を愛する生徒」を育成し、地域に貢献できるように励んでいきたい。